

JICA二本松 PROFILE

独立行政法人 国際協力機構
青年海外協力隊事務局
二本松青年海外協力隊訓練所



理事長メッセージ

JICAの理事長に就任し、3年が経過しました。この間、英国のEU離脱決定、米国のトランプ政権の誕生、一帯一路構想に見られる中国の台頭など、世界の秩序に大きな影響を及ぼす動きが世界の各地で見られます。第二次世界大戦後に続いてきた国際協調体制は大きな岐路に立たされています。

一方で、紛争や過激主義、貧困や格差、難民の急増と長期化、感染症や自然災害など、複雑で相互に関連する課題が、国境を越えて地球上の多くの人々の命と尊厳を脅かし続けています。世界とのつながりの中で生きる日本にとって、世界が平和で安定し、繁栄することは日本の国益そのものであり、そのための国際協力は日本の存立と不可分です。

この意味で、2015年の国連サミットにおいて合意した「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けた取り組みは、国際社会で日本が存在感とリーダーシップを発揮し、国際協調体制を維持発展させていく、またとないチャンスです。それだけに、日本のODAを実施する総合的な開発協力機関である私たちJICAの責任は重大であり、国内外の様々な立場の方々とともに、開発の恩恵から誰一人取り残さない世界の実現に向けた国際協力に積極的に取り組んでいく所存です。

JICAは、人間の安全保障と質の高い成長を国際協力活動の任務とし、その実施に際しては、相手国の立場を尊重しつつ、対等な関係で相互に学び合う姿勢を貫いてきました。今後も、「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、人々や国同士が信頼で結ばれる世界を作り上げていくことを目指します。同時に、国際協力は、日本自身の成長発展にも資するものでなければなりません。日本の経験や知見を、世界の貧困削減や経済成長に活用できれば、日本の存在感は更に高まります。JICAは、日本政府、地方自治体、民間企業、市民社会、大学・研究機関など様々な方々と連携した開発協力の実施を進めていきます。

その中で重視しているのが、「JICA開発大学院連携」です。日本は非西洋から先進国となった最初の例であり、伝統と近代を両立させ、自由で豊かな民主的な国を作り上げた、途上国の発展のベストモデルの一つです。また、日本のODAはアジアを中心に途上国の発展に大きく貢献してきました。こうした経験や知見から、日本は世界の中で開発学をリードする国となり得ると考えます。「JICA開発大学院連携」では、開発途上国の発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、国内の大学と連携しつつ、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後のドナーとしての知見の両面を学ぶ機会を提供します。

2016年7月に、バングラデシュで発生した「ダッカ襲撃テロ事件」にて、同じ志をもって国際協力を尽力されていた7人の大切な方々の尊い命が奪われました。このような痛ましい事態を二度と繰り返さぬよう、今後も、事業関係者の安全第一に、安全対策の不断の見直しと改善に、最大限、取り組んでまいります。

2018年10月、JICAが日本の政府開発援助(ODA)を一元的に担う「新JICA」になってから、10年の節目を迎えました。これからも、日本の皆様からの信頼と世界に対する責任をあわせ持ち、日本を代表する開発協力機関の理事長として強い使命感をもって業務に臨む所存ですので、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



国際協力機構 (JICA)
理事長 北岡 伸一

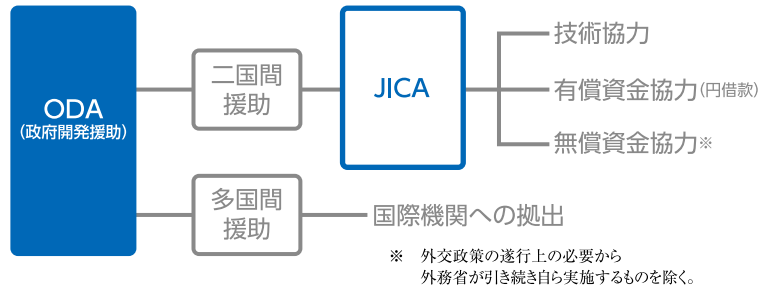
ODAとJICA

日本は、1954年にコロンボプラン^{※1}に加盟して以来、「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて我が国の安全と繁栄の確保に資すること^{※2}」を目的に、政府開発援助(ODA:Official Development Assistance)として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の実施を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約100カ所へのぼる海外拠点を窓口として、世界150以上の国と地域で事業を展開しています。

※1 コロンボプラン:南アジア、東南アジア、太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。

※2 2003年8月改定ODA大綱より



JICAの国内拠点の役割

JICAは、東京の本部に加え、全国に16カ所の国内拠点を設置しています。

国内拠点は、JICAの国際協力の重要な現場です。開発途上国からの研修員や派遣前海外協力隊が学ぶ受け入れ先を提供し、地域における国際協力と市民参加を推進しています。

こうした研修員受入事業や海外協力隊事業に加えて、JICAの事業や国際協力についての情報提供および開発教育支援、また、自治体、NGO、大学などの市民参加協力事業を幅広く支援しています。

国内拠点は、これからも開発途上国と日本を結ぶ架け橋として、それぞれの地域の社会や産業、市民が育ててきた知恵や技術、経験を活かした特色ある国際協力を推進する拠点として活動を進めていきます。

(JICA二本松とJICA駒ヶ根は、2009年10月より、青年海外協力隊事務局に附置される本部の一部門となりました。)

国内拠点 ()内は各国内拠点の所轄地区です。

- ① JICA地球ひろば
- ② JICA札幌(北海道〈道央・道北・道南〉)
- ③ JICA帯広(北海道〈道東〉)
- ④ JICA東北(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)
- ⑤ JICA二本松(福島県^{※1})
- ⑥ JICA筑波(茨城県)
- ⑦ JICA東京(栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・山梨県・東京都および新潟県)
- ⑧ JICA横浜(神奈川県)
- ⑨ JICA駒ヶ根(長野県^{※2})



- ⑩ JICA中部／なごや地球ひろば(静岡県・岐阜県・愛知県・三重県)
- ⑪ JICA北陸(富山県・石川県・福井県)
- ⑫ JICA関西(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)
- ⑬ JICA中国(鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県)
- ⑭ JICA四国(徳島県・香川県・愛媛県・高知県)
- ⑮ JICA九州(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)
- ⑯ JICA沖縄(沖縄県)

※1 海外協力隊の訓練、募集広報・相談、支援等ならびに市民参加・開発教育に関する事業を担当

※2 研修員受入事業(青年研修事業を除く)はJICA東京が担当。



JICA海外協力隊 派遣前訓練

あだたらの大自然のもと、世界へ羽ばたく



JICA海外協力隊は任国に赴任する準備を70日間、二本松訓練所で行います。訓練の内容は任国での活動に必要な知識や技能を講座、演習形式で学び、語学は少人数クラスで集中研修を行っています。訓練を円滑に進め効果を高めるために訓練所内では厳しい規則を課しています(挨拶の励行、時間厳守、所内での飲酒禁止、門限など)。規律正しい生活を送ることにより、公人としての心構えや日本代表としての誇りや責任感を養います。また幅広い年齢層(20歳から70歳)、様々な背景を持つ海外協力隊が全国から集まり、共同生活を通して連帯感を高め、相互扶助の精神を養っています。

派遣前訓練 コース・講座

語学

任地で活動するために必要となる語学の基礎的知識と実践力を身に付けます。

短期間でより高い成果を挙げるために、少人数クラス制により、基礎的な日常会話から専門技術分野に至るまで、ベテラン講師による語学の特訓を集中的に行います。

学習言語

英語、フランス語、ポルトガル語、中国語、マレー語、タイ語、クメール語、ベトナム語、ラオ語、インドネシア語、アラビア語、モンゴル語、スワヒリ語、テトゥン語等



活動手法

JICA海外協力隊が現地で活動する際に必要な手法を学びます。学んだ内容をグループワークや所外活動等で実践することで、現地での実践力を養います。

講座例

目標管理概論、コミュニケーション・プレゼンテーションの基礎、調査手法



訓練二日の流れ

7:10 8:45

朝食

語学訓練



語学訓練(ホームクラス)

11:40

昼食



昼食

13:00

語学訓練



語学訓練(テクニカルクラス)

15:00

各種講座



健康管理・安全管理

任地での活動の基礎となる体力、健康管理と安全管理に関する知識を身に付けます。

講座例

救急法、感染症、歯科衛生、婦人科、海外における安全対策、自動車二輪不整地走行



生活班活動

派遣前訓練での共同生活を通して、海外協力隊同士の連帯感を高め、海外協力隊に必要な態度や心構えを身に付けます。

講座例

生活班別ミーティング、委員会活動、フィールドワーク



社会的多様性理解・活用力

海外協力隊に必要な心構えを身に付けると同時に、任地の事情を理解し、現場への適応力を養います。

講座例

任国研究、帰国後の進路と社会還元



各種オリエンテーション

訓練所の概要や規則、派遣手続きを理解します。入所式や修了式など所内の行事や皇太子殿下御接見のように所外行事への参加もあります。



地域との連携

JICA二本松では二本松市民の皆さんと交流するイベントを行っております。

世代や立場を超えた交流を図ることで、海外協力隊として必要な他者理解力、コミュニケーション力等の資質を養います。



公開講座

JICA二本松では派遣前訓練の講座の一部を一般の方々にも公開しております。各分野の第一線で活躍している講師による講義を行います。(予約制)

主な講座

- JICA事業概要
- 地球のステージ
- 国際関係と日本の国際協力

17:00

18:00

19:00

23:00



夕食



夕食



語学自習

語学自習



自主企画講座

自主企画講座

消灯



“ふくしま”で 世界を、学ぶ。

JICA二本松は市民の皆様の「知りたい!」を応援します。



日々変化する国際社会の中に生きている私たちにとって、世界が抱える様々な問題を知り行動するために、JICA二本松では多彩な市民参加型プログラムを関係団体と共に提供しています。市民の皆様と一緒に考えて、国内におけるJICAの大きな役割です。

一般市民向け(イベント・セミナーなど)

“食”を通して世界を知る 「おいしく学ぶ、世界の暮らし」

開催時期：3か月に1回

対象：一般

世界の国々には、その土地ならではの食文化が存在します。そんな世界の食事を味わいながら、その国で活動してきた青年海外協力隊の話を知ることができます。

参加者同士、交流を深めながら学び合う 「ふくしまグローバルセミナー」

開催時期：秋季

対象：高校生以上

多文化共生・国際交流・国際協力についての参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど幅広い内容の講座がひらかれます。

学生・先生方向け(教育現場での活用)

“国際協力”を教室にお届け 「JICA国際協力出前講座」

開催時期：通年

対象：小、中、高等学校、専門学校、大学、公民館等

JICAスタッフやJICA海外協力隊経験者を学校などの現場に派遣し、世界の現状や途上国での暮らし、活動の体験談を伝えるプログラムです。

青年海外協力隊が生まれる場所で世界を学ぶ 「JICA二本松訪問学習プログラム」

開催時期：通年

対象：小、中、高等学校、専門学校、大学、公民館等

開発途上国での活動に向け訓練を行う二本松訓練所で、講座を通して世界の現状を知り、実際に訓練生たちが訓練に励む施設を見学していただくプログラムです。

先生のための海外研修プログラム 「教師海外研修」

開催時期：夏季(8月)

対象：学校教育関係者

JICAが実施する開発途上国での支援の現場を実際にご覧いただき、教育現場での国際理解教育へ繋げていただくことを目的とした教育関係者のための研修です。

宿泊型で派遣前訓練を体験する 「JICA二本松特別研修プログラム」

開催時期：通年

対象：中、高等学校、専門学校、大学等

二本松訓練所に宿泊し、JICA海外協力隊が行う派遣前訓練を体験していただくプログラムです。語学訓練やワークショップなどを通して、体験的に国際協力を学ぶことができます。

自治体、大学、NGOなど団体向け(技術や経験を途上国のために活かす)

途上国の生活をより良くする技術が福島にはある。 「草の根技術協力事業」

開催時期：通年

対象：NGO、大学、地方自治体及び公益法人等の団体等

開発途上国の住民の生活改善・生計向上に役立つ分野での協力活動の提案を受け付けます。政府開発援助(ODA)の一環としてその事業を支援、共同で実施するものです。

世界の若者が“ふくしま”で学ぶ18日間 「青年研修」

開催時期：通年

将来の国づくりを担う開発途上国の青年たちを日本に招き、それぞれの国で必要とされる分野における日本の経験、技術を理解する基礎的な研修を行います。日本の技術が発展した背景を理解し、それぞれの国の課題解決への取り組みに必要な知識・意識を身に付ける人材育成を目的としています。

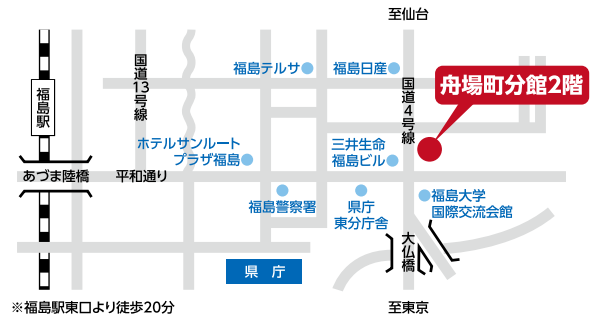




国際協力推進員(福島県JICAデスク)

JICAは公益財団法人福島県国際交流協会内に福島県JICAデスク(国際協力推進員)を配置しています。

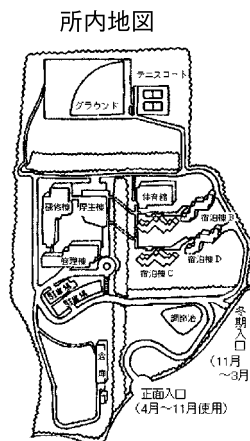
国際協力推進員はJICAが実施する事業や広報・啓発活動の推進、自治体との国際交流・協力事業との連携促進などの業務を行っています。国際協力やJICAの活動に関するご質問、ご相談などお気軽にご連絡下さい。



福島県JICAデスク 公益財団法人福島県国際交流協会
〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階
TEL : 024-524-1315 FAX : 024-521-8308

JICA二本松訓練所概要

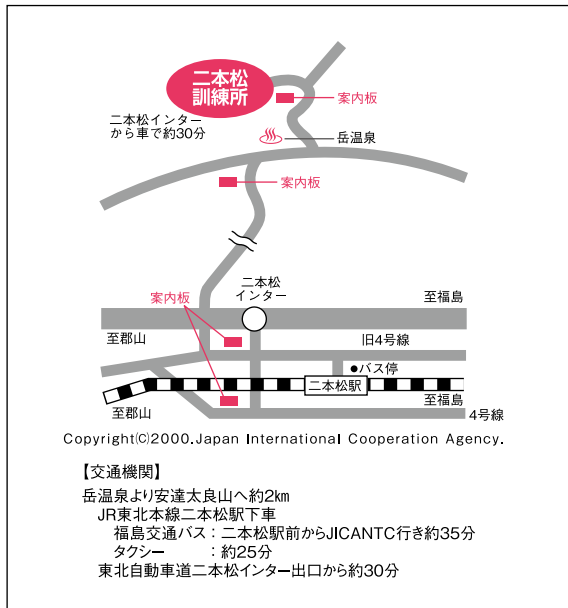
構造 鉄筋コンクリート造(一部木造)
主要施設 管理棟、研修棟、厚生棟、宿泊棟
施設規模 敷地面積 141,131㎡
建築面積 8,503㎡
延床面積 14,734㎡
駐車場 64台



〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL : 0243-24-3200(代)

JICA概要

名称 独立行政法人国際協力機構 Japan International Cooperation Agency (JICA)
代表者名 理事長 北岡 伸一
所在地 本部 〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル1～6F
設立年月日 平成15年10月1日
設立目的 独立行政法人国際協力機構法(平成14年法律第136号)に基づき設立された独立行政法人で開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資する事を目的とする。
資本金 8兆998億円(2018年3月末時点)
常勤職員数 1,909名(2018年3月末時点)



JICA二本松

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL：0243-24-3200(代表) FAX：0243-24-3214
<http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/index.html>